

## 1 活動名

「端午節について理解を深めよう」～中国と日本の文化・風習の違いと共通点～

## 2 活動の目標

- (1) 中国の言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と中国語との音声の違い等に気付くとともに、中国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。【知識・技能】
- (2) 端午節の学習を通して、中国の言語や文化の理解を深め、中国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。【思考・判断・表現】
- (3) 中国の言語やその背景にある生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気づき、相手に配慮しながらコミュニケーションをとろうとする姿勢を育てる。【主体的に学習に取り組む態度】

## 3 バイカルチャラルの資質育成との関連

中国の言語や文化についての学習を通し、多様な価値観に触れさせると同時に、それらの良さを認め受容しつつ、自身の考えや思いを適切に伝える手立てを学ぶ。

## 4 児童生徒の実態について

本学級は、男子6名、女子7名の合計13名である。国際結婚家庭が約6割と、中国にルーツを持つ多数の児童が在籍している。家庭では中国語を主たる言語としている児童が多く、数名の児童には日本語の力には課題が見られる。反面、中国での生活が長く、日本での生活経験がほとんどない児童もいるため、中国語の能力は高く、生活や習慣、行事などの知識が豊富である。一方では、国際結婚家庭ではない児童は、中国語を生活で用いることがあまりなく、中国での生活経験があまりないため、中国の言語や文化の知識に大きな差が見られる。

学級には互いを尊重し、支え合う雰囲気があふれている。中国語に関する知識や経験に差があるからこそ、児童たちは学習を通して多様な価値観にふれ、それぞれを認め合う体験につなげることができると考えている。

本活動を通して、児童がそれぞれの良さを発揮し、全ての児童がバイカルチャラルの資質を育てるきっかけとしたいと考えている。

## 5 活動について

本校では、英語の時間とは別に、全校児童生徒が週に一時間「中国文化と中国語」を学ぶ時間を設定している。小学部においては、小学校学習指導要領の「外国語活動」の方針に基づき、各学級で学習に取り組んでいる。本校の中国語担当教員及び担任に加え、現地の高等学校からの外部講師を加えた3人体制で指導を行っている。

本活動では、中国の「端午節」についての学習を通して、中国語の言語・文化への理解を深める。また、日本における「端午の節句」との比較を通して、日中双方の文化の特徴について肯定的に捉えさせることを目指している。そのことを通して、児童たちに様々な価値観にふれて、

それを受け入れた上で、自分自身の生き方・ルーツを考えるきっかけにしたいと考えている。特に、国際結婚家庭の児童には、中国の言語や文化の知識や経験があることを肯定的に捉え、将来国際社会の中で活躍できることにつながる自己肯定感を育みたいと考えている。

## 6 活動構成（総時数3時間）

時数	【学習活動】	【ポイント】
第1時	<p>「中国の端午節の由来や特徴を知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●関連する言葉を練習し、歌を歌う。</li> <li>●中国の端午節の祝い方を知る。</li> <li>●粽(ちまき)の種類を知り、好きな粽の具などについて、教員や友人とインタビューしあう。</li> </ul>	<p>◆バイカルチュラルの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆中国を主たる言語としている児童が活躍する機会を大切にする。</li> <li>◆身近な生活と関連付けて、中国の文化について理解を深める。</li> </ul>
第2時	<p>「端午節と龍の関係を知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ドラゴンボートレースの動画を観て、端午節との関連を知る。</li> <li>●端午節に関連した龍の飾りの工作に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆国際結婚家庭の児童の知識や経験を生かし、学習が深めることで、自己肯定感の伸長を図る。</li> <li>◆工作を通して、中国の文化に親しみを感じさせる。</li> </ul>
第3時	<p>「中国の端午節と日本との端午の節句を比べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本の端午の節句について知り、中国の端午節との共通点・相違点を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日中両国の文化の共通点・相違点を比較することを通して、日本と中国それぞれの価値観を捉え、多様な価値観を受け入れ認め合う資質育成のきっかけとする。</li> </ul>

## 7 資料



現地校の先生を外部講師として招く

龍の飾りの工作

中国の「端午節」と日本の「端午の節句」を  
比べてみよう！

	中国の端午節	日本の端午の節句
いつ？	旧暦 5月5日	5月5日
食べるもの	ちまき(中国)	ちまき(日本) かしわもち
かざるもの	香包	こいのぼり・五目人形あかがと
子ども	額におまけで「疔」とかく	五子人形
その他の習慣	ドラゴンパペット いっしょにおよもぎの葉を家の間にかける。	はらが濡ししよがの葉さふうに入れる？ 51
意味・思い	魔まけ、虫よけ、子どもを害まわ疫病 から守る。	子どもに疫病から守る ワークシート 日中の比較

<メモ>

今日は、中国の端午節と日本の端午の節句のちまきについて学んだ。

日本でもちまきを金で買ってきておどろきました。

## 8 考察

### 【成果】

- ◆日本から大連に来て中国のことを知らない児童、反対に中国の生活が長く日本の生活経験があまりない児童、双方にとって、日本と中国の文化の違いは新たな発見があり、新鮮な刺激を受けていた。
- ◆日本語の学校生活の中では中国ルーツの児童の生活経験や知識、言語の技能などを目にする機会はあまりないが、本活動を通してそれぞれの児童が友人の知らない一面を知ることができた。
- ◆日本語力に課題のある児童にとって、中国の知識や生活経験を生かして活躍する場面が多く、自信につながっている様子が見られた。

### 【課題】

- ◆本学級は両親が日本人である家庭・児童のほうが少数である。本活動の中では、中国語を話すことができず、中国に関する知識が少ないことに対して、かえって自信をなくしてしまう場面も見られた。
- ◆中国にルーツがある国際結婚家庭の児童は、非常に積極的で得意なことに関して自信があふれていることが多い。それぞれの児童の自信と意欲を大切にしつつ、相手に配慮をしつつ考えや思いを伝えることができるように、適切なコミュニケーションを身につけさせる必要があると感じている。

### 【まとめ】

本活動の中で中国の端午節と日本の端午の節句を比較することを通して、日本と中国それぞれの伝統に根づいた価値観の違いに気づくきっかけとなった。また、日本から来た児童、中国の生活が長い児童、それぞれの良さを生かして有意義な交流を行うことができた。本活動の学びを生かして、今後の活動の中でさらに日中の価値観の共通点・相違点を比較し、最終的には多様な価値観を肯定的に受け入れる資質の育成につなげていきたいと考えている。

本学級では、日本ルーツと中国ルーツ、少数のほうが自信を喪失しやすい傾向が見られた。支援的な風土を最大限に生かし、日本と中国両国それぞれの良さに気づき、特徴を捉え能力・資質の育成に努めたいと考えている。